

# 令和6年度投稿

## 俳句

(四月)

行く春や 旅の宴の 月日貝

(維新 竹東子)

城山に 若葉の香り 鳥の声

(城山 竹東子)

仙巖園 景色も 負けぬ 春の雨

(仙巖園 猫髭収集家)

春日傘 ここが見事と 桜島

(仙巖園 倖悦)

春雨の 向かふに 噴煙 桜島

(城山 月城花)

東風に 吹かれ 足重くなり 雨宿り

(仙巖園 ななもん)

こいのぼり そよそよおよぐ さくらじま

(城山 匿名)

階段を 登った先に お昼だ「ドーン！」

(城山 ワルはるちゃん)

桜島 心支える よりどころ

(城山 まるっちのママ)

城山の 頂上まだか ソーダ水

(城山 川上町の成さん娘)

白煙に 雲の峰めく 桜島

(城山 恵美子)

(五月)

初夏薩摩 俳句作りに 耽る妻

(仙巖園 遊び心お島津)

夏の海 水面に聳える 桜島

(仙巖園 g t)

子らの声 はこぶ薫風 桜島

(城山 粥川 貴斗)

火山より 返る「やっほー」 こいのぼる

(城山 ペえ)

鹿児島町の 町を見下ろす 展望台

(城山 猫仁)

大鳥居 霧島神宮 青もみじ

(城山 和ちゃん)

新緑に 白くたなびく 桜島

(城山 和ちゃん)

噴く山を 眺めて一夜 春の旅

(城山 鷹野美恵子)

## 川柳

(四月)

わからずや 母を背にして いざゆかん

(城山 トマト)

(五月)

父の案 母は一喝 ぎをいうな

(仙巖園 遊び心お島津)

玉こめて 西洋(てき)に備えし 島津兵

(仙巖園 思春期の47歳)

仙巖園 歴史見守る 桜島

(仙巖園 g t)

闇の中 頭に浮かべる 桜島

(城山 べえ)

西郷どんも 愛した景色 我もまた

(城山 和ちゃん)

# 短歌

(五月)

曇天も 揃えて歩く 父と子の

仙巖浴びる 未来への光

(仙巖園 なつまいも)

仙巖園 島津の歴史に 入り浸る

我に返すは 電車の足音

(仙巖園 g t)

上野でも 目立つ存在 西郷どん

遠路江戸でも 足跡見ゆる

(維新 金太郎)

霧島を 背景にして 横切った

路面電車と 汽笛鳴る船

(仙巖園 白鳥007)

桜島 幼き祖母に 寄り添いし

いま我孫と見 世代を超ゆる

(仙巖園 おじょう)